

ワクワク ひろば

達者です！

③

わいわい 連絡帳 ③

青島小学校発

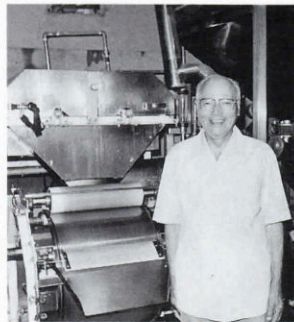


原田 優さん
5年(大泊)

では、アワビは赤ちゃんのときは青っぽい色をしていることやヒラメは、始めは立ち泳ぎをしていることなどを初めて知りました。また、たくさん増えた赤ちゃんを海に帰してやるという話も聞きました。

トーフが人生

南 町 磯野 元夫さん(74歳)



若い時は兵隊で中国へ。右腕や右肩に戦争の傷あとがあり、鉄砲の玉入れのバンドで命拾いをしたことなど戦争の話はつきない。

引き揚げ後、カマボコをつくったり、左官をしたり、職種は色々だが、「人に使われていたのではダメだ」と父に言われてトーフ屋をはじめた。

トーフ作りの経験はあった。山口で5年間、おじさんの所で手伝っていたとのこと。

トーフ屋を始めるのに、トーフの箱一つにしても自分でこしらえ、朝は早く、2時に起きて作る。「トーフ作りは水が大事だね。トーフを売り終ると、水をもらいに、お寺などに行ったものです」と苦労の一端をのぞかせたり、「ト

ソフトのチーム結成が会のスタートです。会員33名、平均年齢は40歳位です。

去年の鯨祭りに合わせ、会員の総力をあげ、古式捕鯨を実現させました。一つのものを作り上げる苦労も、仲間がいたからこそ乗り越えられたと思います。

会では、月一回の休漁日を設けようと話し合っています。資源確保や家族とのふれあい、

また、魅力ある漁業にするうえから、必要ではないかと考えています。

しかし、職種の違いもあり会の仲間内でも賛否両論で、足踏み状態です。

古式捕鯨を完成させた素晴らしい仲間です。解決の糸口はあると思います。

魅力ある漁業にするためにも、よく話し合い、実現に向けて努力したいと思っています。

「かるた学習」
ほくたちは、ふるさとのことを、もっと知るために、ふるさと学習をすることになりました。そこで、今年は大泊にある山口県外海水産試験場について調べることになりました。



飼うときに、注意することたくさんあります。ほくはカブト虫を飼っているけど、それとは比べものにならないほどの、注意と世話がいるのでとても感心しました。このことを学校で発表しました。

新刊紹介 図書館

- 芥川賞「寂寥郊野」吉田晴彦
- 直木賞「マックスの山」高村薫
- うたかた(渡辺淳一)
- 続病院で死ぬということ(山崎章郎)
- ばらの名前上(ウンベルト・エーコ)
- 江戸群盗伝(半村良)
- 吉田



山根 秋男さん
(通漁協青壮年部
橘会副会長)

古式捕鯨の仲間 月一回の休漁日を

仲間達集合②

約10年前、漁民大会での